

水産研究のフロントから

第140回アメリカ水産学会参加報告



総会で挨拶する渡部国際交流委員長

この度、日本水産学会国際交流委員会の委員としてアメリカ合衆国ペンシルベニア州ピッツバーグで開催された第140回アメリカ水産学会に参加してきました。本大会は *Merging our Deeper Currents* をメインテーマに2010年の9月13日から9月17日までの5日間の日程で、開催されました。筆者は9月13日にピッツバーグに到着し、4日間滞在しました。ピッツバーグはかつて鉄の町として栄えたところですが、現在では、ハイテク、保険、教育、金融を中心とした産業構造に転換しています。教育面では、ノーベル賞受賞者を多数輩出したカーネギーメロン大学があります。また、アメリカンフットボールのスティールラーズのホームタウンとしても知られています。

今回の大会には、主に北アメリカから1,200人の参加があり、18のセッションに分かれて、発表がなされました。日本からは、国際交流委員長の渡部終五会員と宮崎水試の稲野俊直会員と私が参加したと思われます。今大会は日本からの交通の便もあまりよくなかったため、日本からの参加は例年よりも少なかったと思われます。昨年の大会では、講演要旨を予め大会のホームページで公開していましたが、今年は当日の電子媒体での配布にもどりました。やはり、事前に内容を公開することに、問題があったのだと思われます。

9月14日午後には Business meeting が開催され、外国からの招待者の紹介があり、イギリス諸島水産学会の F. A. Huntingford 会長ならびに日本水産学会から渡部委員長がそれぞれ挨拶をしました。事業報告、収支決算の報告が最初になされ、次に新旧会長の交代の儀式がありました。今までの Don Jackson (ミシシッピ州立大学教授) 会長から、Wayne A. Hubert (ワイオミング大学名誉教授) 新会長に受け継がれました。その後、数々の学会賞の表彰が行われました。そして、来年のシアトル大会の紹介がなされました。なお、この Business meeting の様子はアメリカ水産学会のホームページ (<http://www.fisheries.org/afs10> の AFS Plenary Session 2010) にアップされているので、興味のある方はご覧下さい。

Business meeting の特徴は、参加するたびに思うのですが学生、特に大学院生の優れた研究活動に対する表彰が非常に多いことです。表彰を設けることにより、大学院生の研究に対するモチベーションを上げ、さらにはアメリカ水産学会への囲い込みをしているのではないかと考えられました。日本水産学会もこの辺は参考にするところではないかと思われます。

また、同日夕方には国際交流委員会が開かれ、イギリス、カナダ、メキシコ、ロシア、オーストラリア、ポルトガルおよび日本などからの参加者を交えた各学会の状況について、意見交換を行いました。

15日の夕方には、交歓会というべきイベントがピッツバーグ動物園を借り切って行われました。動物園の入り口あたりから、少しずつ食べ物と飲み物が4か所に順番に振る舞われ、出口に到着する頃にはお腹がいっぱいになりました。日本水産学会大会でもこのようなイベントがあると楽しいのですが、いろいろ条件を解決するのは難しいと思われます。以前、東海大学で開催されたときにナイト水族館ツアーがありましたが、数が限られていました。

来年の第141回大会はワシントン州シアトル市において、*New Frontiers in Fisheries Management and Ecology: Leading the Way in a Changing World* というテーマで9月4日から8日まで開催される予定です。講演要旨のメスは2月の11日になっていますので、日本水産学会からもふるって参加して頂きたいと思えます。この大会では、日米の合同シンポジウム (Climate change and Pacific salmonids) を開催するために準備を現在行っております。詳しくはアメリカ水産学会のホームページをご覧ください。 (海洋大 佐藤秀一)